

## 【学区の環境】

### (1) 地域の沿革

大昔は原始林におおわれ、狩猟を主とした先住民が相当数生活していたようであり、今なお各所縄文土器が数多く出土し、考古学者の注目を集めている。

中世、源頼朝が奥州平定の折、甲斐源氏がその功により、糠部五郡を領するに至り島守は南部藩糠部郡に属した。寛文年間に南部藩が盛岡藩と八戸藩の二つに分かれたときから八戸藩に属してきた。

さて、天正年間に島守安芸(本名四戸太郎右衛門)が門前部落の高台に館を構えた。現在もその二重壕の跡が確認される。当時、米、アワ、ヒエなどの農産物やワラ細工の生産が豊富で、八戸・鮫浦、根城・城下方面、軽米方面へと盛んに移出されていたといわれる。

明治維新で、三戸藩に統轄されたが廃藩置県等を経て青森県に統合された。明治22年町村制の施行により、島守と頃巻沢を合併して島守村となる。昭和30年に町村合併促進法により、中沢村と合併して南郷村となる。平成17年に市町村合併促進法により、八戸市と合併して今日に至る。

### (2) 位置・地勢 地図

南郷区は、八戸市の南部に位置し、東は階上町、西は南部町、南は岩手県軽米町に隣接している。

本学区島守は八戸市の南部を占めて(東経141° 29"、北緯40° 24")東北本線八戸駅から南へ25km、新井田川の上流にある。周囲を山に囲まれた盆地(海拔50m)で、静閑にして美しい郷である。川の流域は土地が肥沃し、古くから水田がひらかれてきた。また、山間地帯では沢田が散在しており台丘の傾斜のゆるやかなところでは畑が開け、山林と交錯している。盆地内は気温も周囲に比較して温暖といってよい。

本学区は八戸市の南部、島守盆地にあり、鷹の巣展望台、鷹の巣溪流、八戸市民の森など、四季を通じて自然の景観に恵まれている。

## 【歴代校長】

代 氏 名 在任期間      代 氏 名 在任期間

初	細川 禪規	昭22.3.3 ~ 24.3.31	十一	千葉 富雄	昭63.4.1 ~ 平2.3.31
二	中村 浩	昭24.4. 1 ~ 30.3.31	十二	米田 裕	平 2.4. 1 ~ 6.3.31
三	滝沢 正	昭30.4. 1 ~ 34.3.31	十三	関本 千義	平 6.4. 1 ~ 9.3.31
四	千葉 武郎	昭34.4. 1 ~ 41.3.31	十四	川崎 光雄	平 9.4. 1 ~ 14.3.31
五	佐々木定次郎	昭41.4. 1 ~ 44.3.31	十五	漆館 秀武	平14.4. 1 ~ 17.3.31
六	青井 健一	昭44.4. 1 ~ 47.3.31	十六	和井田 益郎	平17.4. 1 ~ 19.3.31
七	近藤 健吉	昭47.4. 1 ~ 51.3.31	十七	中野 省吾	平19.4. 1 ~ 23.3.31
八	田沢 練治	昭51.4. 1 ~ 56.3.31	十八	佐藤 隆彦	平23.4. 1 ~ 27.3.31
九	田頭 繁治	昭56.4. 1 ~ 60.3.31	十九	竹花 和人	平27.4. 1 ~
十	川村 博志	昭60.4. 1 ~ 63.3.31			